

## 『漁師さんの森づくり — 森は海の恋人 —』

畠山重篤／著 カナヨ・スギヤマ／絵

講談社



森づくり、というタイトルのわりには、しげぼうが育った豊かな海の話から始まります。潮が引くと、いろんな種類の貝が顔を出します。潮が満ちてくると、釣りです。うなぎもおもしろいように取れました。秋には山の幸も豊富でした。

畠山さんはお父さんの代からカキやノリの養殖をしています。三

陸の海の恵みを受けて生産は順調に伸びていました。ところが東京オリンピックのころを境に、カキは血のような赤い身のものが現れたり、ノリも元気がなくなってきます。工場の出す油のかたまりや海が汚れた時に発生する赤潮プランクトンが原因でした。

良い魚や貝を得るためには、海だけを見つめてははだめなのです。海にそそぐ川の水、その水を作る森を見つめ直さなくては豊かな海は生まれません。そのことに気づいた著者は、漁師仲間と語り、山に森を作る運動を始めました。— 森は海の恋人 — というスローガンと大漁旗を掲げて。

私たちの西緑地でも、雨が落ち葉の栄養をとりこみ、ずっと遠くの海で植物プランクトンを増やしているでしょう。緑地作業と海の恵みが私の中で手をつなぎました。

今回の震災で、あの豊かだった三陸の海岸は壊滅的な打撃を受けました。カキの養殖場も船もすべて津波に持っていかれました。復興への道のりは険しいと思われれます。でも、漁師さんたちは「自然は変わらない、海は絶対によみがえる」と再建を決意しているそうです。

現在、「森は海の恋人緊急支援の会」(代表 田中克 宇治市五ヶ庄平野5-2 530号 T&F: 0774-33-2503) が立ちあがり、募金を呼びかけています。

郵便振替口座記号番号 00930-6-282171

加入者名 森は海の恋人緊急支援の会

(小川)